

住み慣れた地域で、自分らしい生活を、送るために

台東区

在宅療養支援窓口通信

令和4年9月号
No. 9

在宅療養にお困りの方・訪問診療を考えている方のお手伝いをします

○在宅療養支援窓口の相談事例紹介

<相談内容>



ケアマネジャー

一人暮らしのAさんは、先月までは月に1回、医療機関に外来受診していましたが、今月は受診しておらず、薬も全く飲んでいないようです。最近では食事ほとんど食べられないようで、ゼリー状のものを食べていると聞きました。訪問診療に切り替えた方がいいでしょうか。

<支援内容>

相談があった翌日、ケアマネジャーと自宅に伺い状態の確認をしました。Aさんは、アイスクリームやゼリー等しか食べておらず、最近さらに痩せたそうです。ベッドから起き上がり椅子に座って話をしてくださいましたが、かなり辛そうな様子でした。

Aさんに早く受診(入院)することを勧めましたが、Aさんは「入院は絶対にしたくない。家で過ごしたい。」と意思がはっきりしていました。そのため、ご本人の意向と今の状態をかかりつけ医に報告しました。かかりつけ医はすぐに訪問診療を開始し、ケアマネジャーは訪問看護やヘルパーの調整、介護保険の区分変更をしてくれました。

<ご本人の反応>

どうしても入院はしたくないというご本人に、「かかりつけの先生が家に来てくれるか聞いてみますね。」と伝えると、「ありがとうございます。よろしく願います。」と、とてもうれしそうな笑顔をみせてくれました。訪問診療や訪問看護が入り、自宅で点滴を行ったところ、徐々に元気を取り戻していきました。



Aさん

ケースを振り返って

医療や介護が必要になった時に、「どこでどのように過ごしたいか」をあらかじめ考え、家族や大切な人、医療・介護ケアチームと繰り返し話し合い、自分の思いを共有することをACP(人生会議)といいます。

今回のケースでは、Aさんのかかりつけの医師から、『今までAさんと「もしもの時のこと」を話したことがなかった。絶対に入院したくないという気持ちがわかったので、Aさんと関わりがある人たちとACP(人生会議)を行っていきたいと思う』という声が聞かれました。

ケアマネジャーがAさんの異変に早く気づき、相談してくれたことが、かかりつけ医もACPIについて話すきっかけとなりました。ACPIは自分が自分らしく生きていくため、人生観・価値観から将来の生活や医療・介護のことを一人ではなく、みんなで実践するために大切なことだと実感しました。

【ACPの冊子を窓口で配布しています】



在宅療養支援窓口では、在宅療養における医療面を中心とした様々なご相談に応じます。

ケアマネジャーや医療関係者・医療機関のサポートも行っております。是非窓口へご相談ください！

台東区在宅療養支援窓口 電話：03 (5603) 0235

